

素敵に輝け！

小さな命への思いやり

4月20日（火）の2限目、各教室を回りました。4年生教室に入った時です。後方に座っている子供たちの視線が私に集まりました。一瞬「どうしたのかな？」と思いましたが、また前を向いたので気に止めないでいました。しかし、動き始めたらまた視線が。しかも下方へ。「ん？ どうした？ ズボンに何か付いてる？」と見ても何も付いていません。しばらく周りをキョロキョロしてようやく分かりました。床に小さな蜂がいたのです。飛ばずに床で動いていました。「あっ、これね。分かったよ」と表情で伝え、ちりとりに乗せて窓の外へ出してあげました。

教室に戻ると、Bさんが小さな声で「ありがとうございます」とお礼を言ってくれました。後ろの席の子たちは、床にいる蜂を私が踏むんじゃないかと気になり、動くたびにチラッと見ていたのでしょうか、きっと。

翌日Bさんに聞くと、「1時間目に窓の所にいたけど、後でそこに行った」「怖かった？」「小さいから怖くなかった」「校長先生が踏むかと思って気になってたが？」「はい」とのことでした。思ったとおり「怖いから逃がして！」ではなく、「かわいそうだから踏まないで！」でした。

私たちは多くの命を食材としていただいて生きています。時には小さな虫を「ごめんね」と思いながら駆除することもあります。やむを得ず他の命を犠牲にする部分を抱えながら生きているのが私たちです。しかし、本来軽い命などありません。奪われなくても済む命を奪う必要はありません。Bさんたちの小さな生き物の命を思いやる優しさ。こういう優しさが広まることを願っています。

自分たちでつくった自分たちの学級目標

先日の学習参観では、学級目標を掲げていませんでした。それは、先生方に「慌てなくてよいので、しばらく学級の実態を見つめる期間をとってください」と伝えたからです。実態を踏まえて「こんな学級にしたい」という担任と子供たちの思いを出し合い、話し合っただけの学級目標こそ、「自分たちが考えつくり上げた自分たちの目標」となります。そして、常に自分たちの取組を振り返る観点として意識され、意識することで意欲的な活動につながるのです。

先日、2年教室で「学級目標を決めよう」の話合いがありました。黒板には「なかよく」「やさしい」「なんでもチャレンジ」「かがやくひとみ」等の素敵な言葉が並び、「できることがふえる」「えがおがふえる」「にがてなこと」「しゅう中（キラキラ）」等の理由が添えられていました。教室の後ろで聞きながら「いいぞ。どんどん思いを込めてごらん」と思いながら眺めていました。さて、どんな学級目標になったのでしょうか。

1年間の行動指針、そして振り返りの観点となる学級目標。今後各教室に掲げ、事あるごとに見つめていきます。